

第188回 中小企業の景気動向調査

調査時点	2021年5月下旬～6月上旬
調査対象期間	2021年4月～6月実績 2021年7月～9月見通し
調査対象企業	当金庫お取引先 1,728社(大阪府内ならびに尼崎市)
回答企業数	769社
回答率	44.5%
調査方法	調査票郵送により回収
分析方法	DI(Diffusion Index)を中心に分析 DIとは、売上、収益、価格、数量について、「増加」(上昇)と回答した企業割合から「減少」(低下)と答えた企業割合を差し引いた値 [例:売上DIの場合] 売上が「増加」と答えた企業の割合から「減少」と答えた企業の割合を差し引いて求めます。

売上が「増加」した企業 45%	「変わらず」 20%	売上が「減少」した企業 35%
--------------------	---------------	--------------------

45% - 35% = 10 ← 売上DI

アンケート回答企業の内訳

業種別 従業員別	製造業	卸売業	小売業	飲食業	建設業	サービス業	運輸業	不動産業	計	構成比	累計 構成比
1～4	43	36	38	10	34	27	2	49	215	28.0%	28.0%
5～10	72	23	12	11	37	15	6	12	188	24.4%	52.4%
11～20	72	12	4	4	22	11	9	5	149	19.4%	71.8%
21～30	30	8	1	3	13	6	10	1	58	7.5%	79.3%
31～50	23	4	2	2	2	8	3	4	51	6.6%	86.0%
51～100	12	5	1	1	6	12	8	3	41	5.3%	91.3%
101～	10	3	3	2	1	2	5	1	32	4.2%	95.4%
無回答	2	1	1	2	0	0	0	2	9	1.2%	96.6%
計	264	92	62	35	115	81	43	77	769	100.0%	
構成比	34.3%	12.0%	8.1%	4.6%	15.0%	10.5%	5.6%	10.0%	100.0%		



(製造業の内訳)

食料品	繊維	木材	家具・建具	パルプ・紙	印刷	化学
3.8%	10.3%	1.9%	1.5%	1.1%	9.2%	6.5%
ゴム・革	鉄鋼	建材	非鉄金属	金属製品	電子部品	その他
2.7%	8.8%	0.0%	3.4%	36.6%	2.7%	11.5%

売上DIは-26.4（前回比+20.7ポイント）、収益DIは-27.9（前回比+18.4ポイント）とともに上昇しました。前回調査時の4-6月の見通しから売上DIは2.9ポイント、収益DIは5.3ポイント上振れています。その要因は、売上DIが全産業で上昇し、特に製造業は-20.2、不動産業は-22.1、運輸業が-23.9まで回復しています。しかし飲食業は-42.8となり、緊急事態宣言の発令（4月25日～5月31日）とその期間延長（6月20日）の影響が大きく、苦戦が続いています。

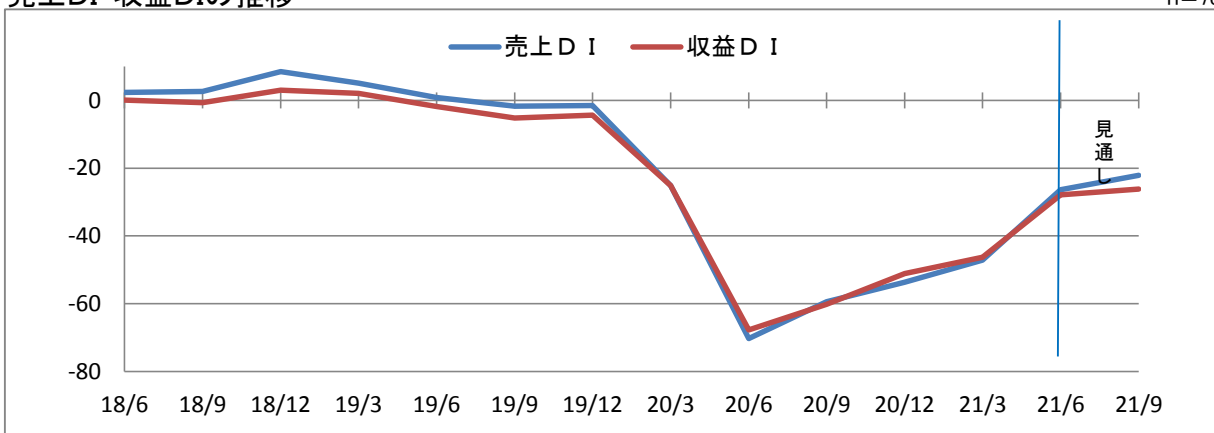
2021年7-9月期は、売上DIが4.3ポイント、収益DIが1.7ポイント上昇すると予想し、職域などワクチン接種の拡大が、経済活動の回復に繋がることに大きな期待を寄せています。

経営上の問題点は、「売上停滞減少」が71.7%（前回比+0.9ポイント）と依然最大ですが、「仕入単価上昇」が53.9%（前回比+10.0ポイント）に急上昇しました。特に製造業では66.9%まで上昇し、鋼材や木材価格の上昇が、収益に悪影響を及ぼすことが懸念されます。

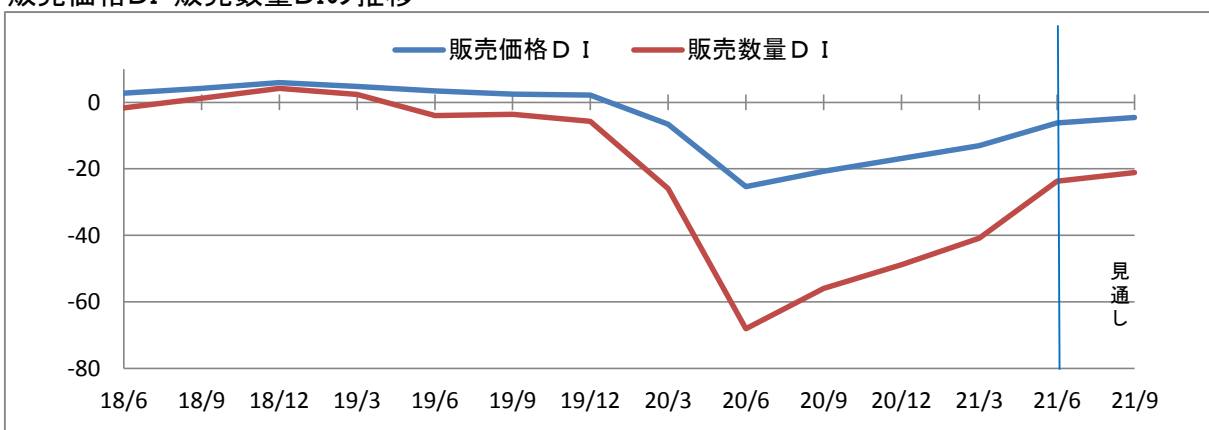
設備投資は「実施中」が11.2%（前回比△0.6ポイント）、「予定あり」が12.1%（前回比+0.4ポイント）で合計23.3%となり、前回に続き高止まり、製造業とサービス業ではそれぞれ27.0%、23.7%となっています。内容は「機械の新設・増設」が29.3%、資金調達方法は「全て自己資金」が43.5%となっています。

売上DI・収益DIの推移

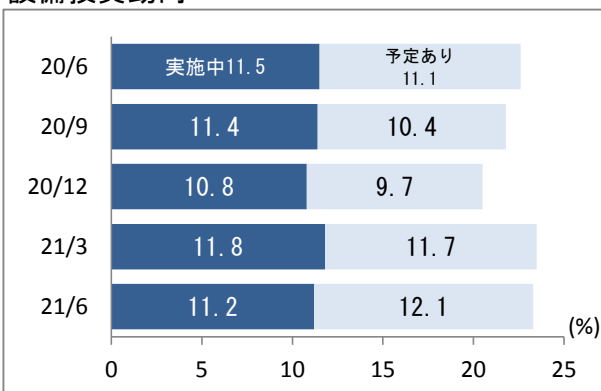
n=769



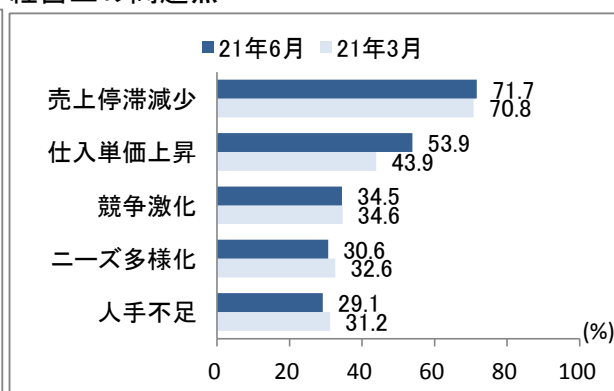
販売価格DI・販売数量DIの推移



設備投資動向



経営上の問題点



(中小企業診断士: 平山)

製造業

回復をリードする製造業

売上D Iは-20.2（前回比+19.4ポイント）、収益D Iは-19.2（前回比+20.8ポイント）とともに上昇しました。前回調査時の4-6月の見通しから売上D Iは4.9ポイント、収益D Iは11.1ポイント上振れし、中国向け輸出（半導体製造装置）や巣ごもり需要による家電関連受注の増加が主な要因とされます。半導体不足による生産調整を迫られるなど、依然として厳しい経済環境が続く企業もありますが、全体では持ち直しの動きが見られます。

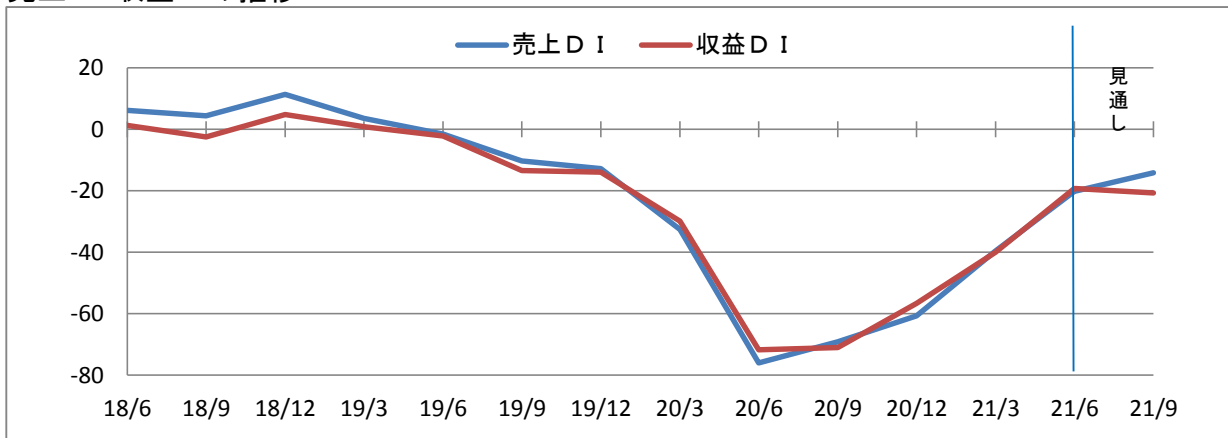
2021年7-9月期は、売上D Iが6.1ポイント上昇し、収益D Iが1.5ポイント下落すると予想しています。ワクチン接種拡大による経済活動の回復に期待しています。

経営上の問題点は、「売上停滞減少」が80.0%（前回比+3.9ポイント）と依然として最大ですが、「仕入単価上昇」が66.9%（前回比+15.9ポイント）に急上昇し、鉄鋼関連など材料価格の高騰が大きな問題点となっています。

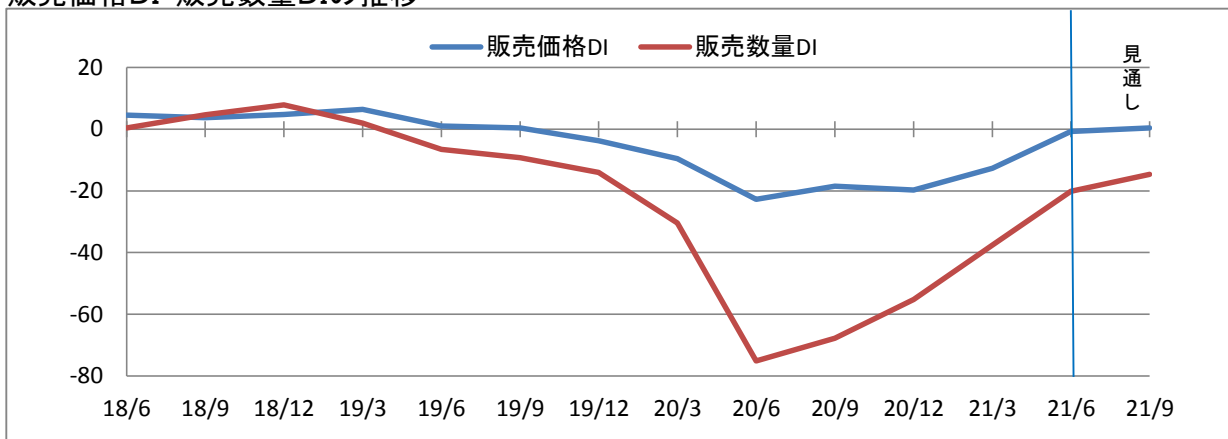
設備投資は「実施中」が13.5%（前回比±0）、「予定あり」が13.5%（前回比±0）で合計27.0%と3月期に続き高止りました。内容は「機械の新設・増設」が46.3%、資金調達方法は「全て自己資金」が36.4%となりました。

売上DI・収益DIの推移

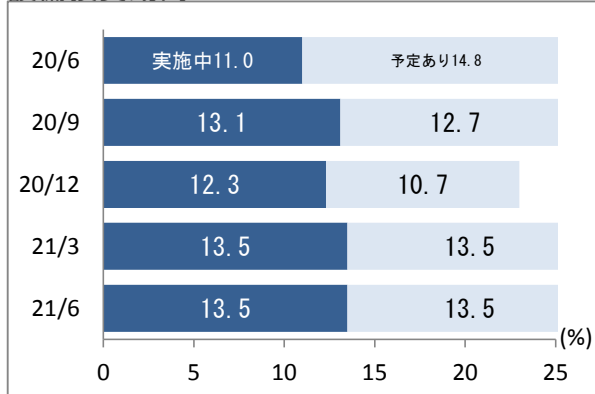
n=264



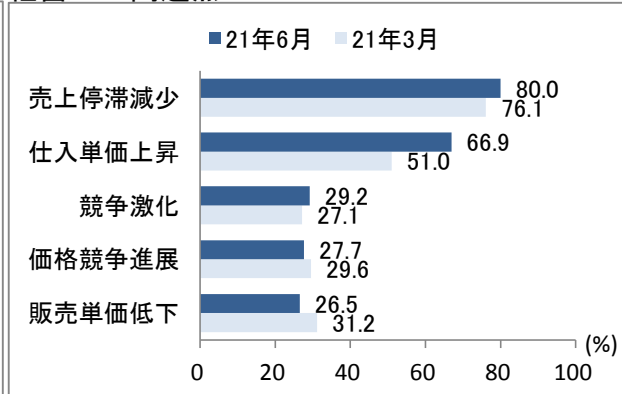
販売価格DI・販売数量DIの推移



設備投資動向



経営上の問題点



(中小企業診断士: 稲津、萩原)

卸売業

仕入単価上昇 懸念される収益

売上D Iは-27.2（前环比+23.4ポイント）、収益D Iは-29.3（前环比+13.2ポイント）とともに上昇しました。前回調査時の4-6月の見通しから売上D Iは5.0ポイント、収益D Iは3.1ポイント下振れし、緊急事態宣言の発令（4月25日～5月31日）とその期間延長（6月20日）より、酒類の提供禁止や集客イベント延期による影響が主な要因と思われます。

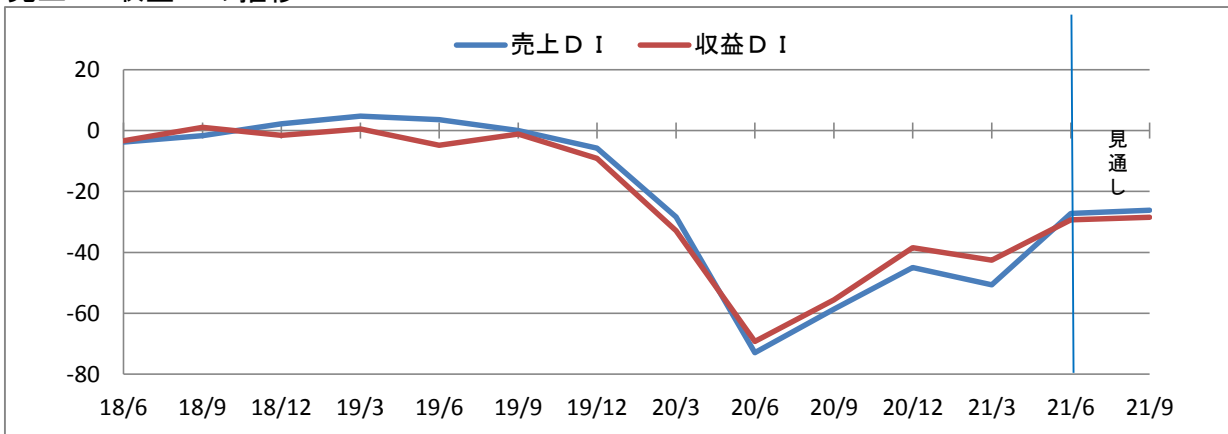
2021年7-9月期は、売上D Iが1.1ポイント、収益D Iが0.8ポイントともに上昇すると予想しています。ワクチン接種の拡大で、外出機会の増加や集客イベント再開に期待を寄せています。

経営上の問題点は、「売上停滞減少」が76.9%（前环比-0.4ポイント）となりましたが、「仕入単価上昇」が54.9%（前环比+13.7）に急上昇し、鋼材価格やウッドショックによる木材価格の高騰が大きな問題点となっています。

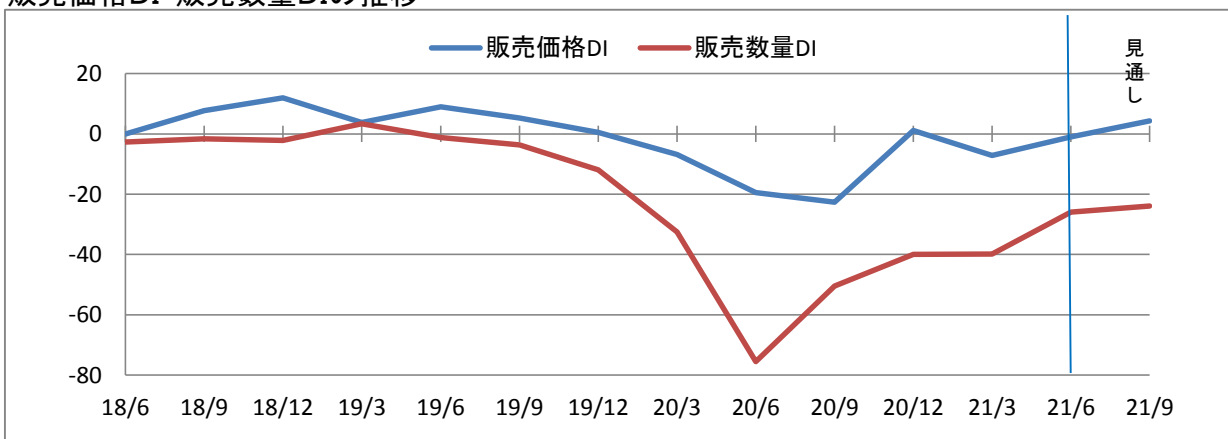
設備投資は「実施中」が2.3%（前环比-9.8ポイント）、「予定あり」が8.0%（前环比+6.9ポイント）で合計10.3%となりました。内容は「事務所、店舗、工場等の新設・増設」が33.3%、資金調達方法は「全て自己資金」が66.7%となっています。

売上DI・収益DIの推移

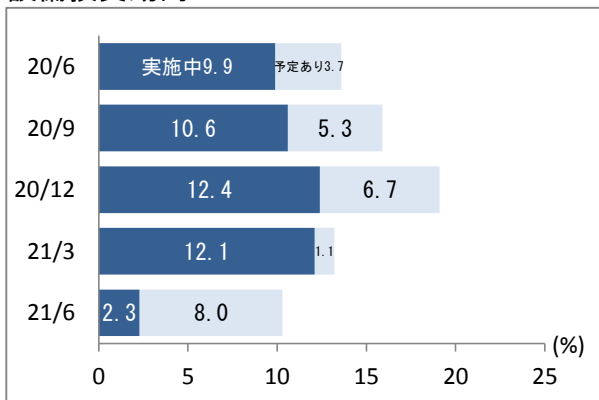
n=92



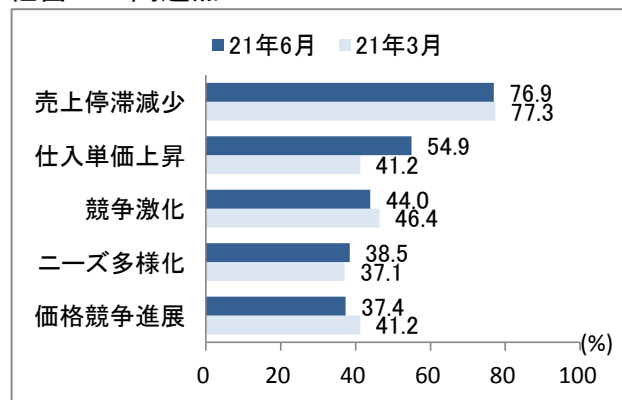
販売価格DI・販売数量DIの推移



設備投資動向



経営上の問題点



(中小企業診断士:萩原、福井)

小売業

一進一退 翻弄される小売業

売上DIは-30.7（前环比+40.6ポイント）、収益DIは-37.1（前环比+38.7ポイント）とともに大きく上昇しました。前回調査時の4-6月の見通しから売上DIは28.4ポイント、収益DIは21.9ポイント上振れし、旺盛な巣ごもり需要や催事販売の再開などが主な要因と思われます。

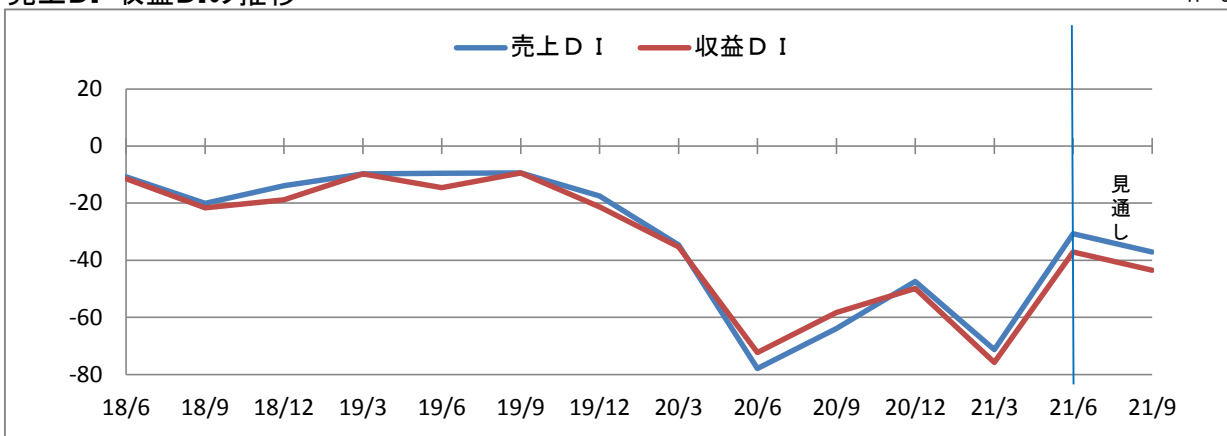
2021年7-9月期は、売上DIが6.4ポイント、収益DIが6.4ポイント下落すると予想し、緊急事態宣言期間の延長で遠のいた客足が戻るのか、不安を抱えています。

経営上の問題点は、「売上停滞減少」が68.3%（前环比△9.0ポイント）ですが、「競争の激化」が45.0%（前环比+16.2ポイント）、「仕入単価上昇」が40.0%（前环比+9.7ポイント）に上昇し、木材や建築機械の高騰により販売価格の設定に苦慮しています。

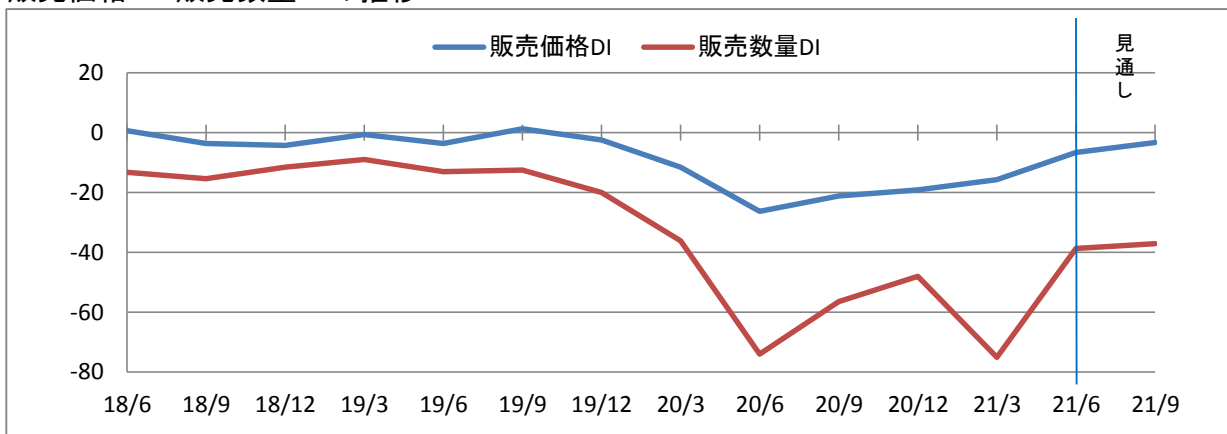
設備投資は「実施中」が6.9%（前环比+2.1ポイント）、「予定あり」が6.9%（前环比△6.0ポイント）で合計13.8%となり後退しました。内容は「車両」が62.5%、資金調達方法は「全て自己資金」が57.1%となり、比較的小規模なものが多いと思われます。ワクチン接種が急がれていますが感染収束への動きは鈍く、業況は一進一退となっています。

売上DI・収益DIの推移

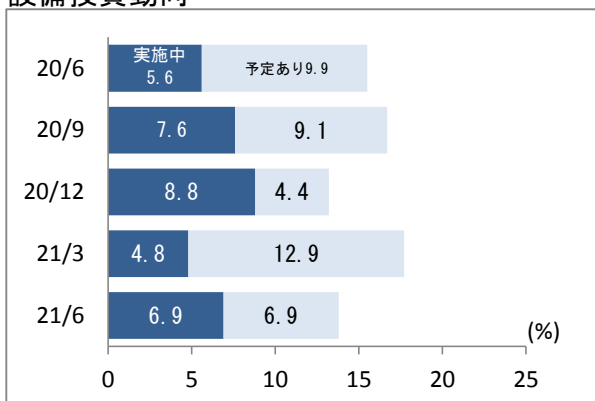
n=62



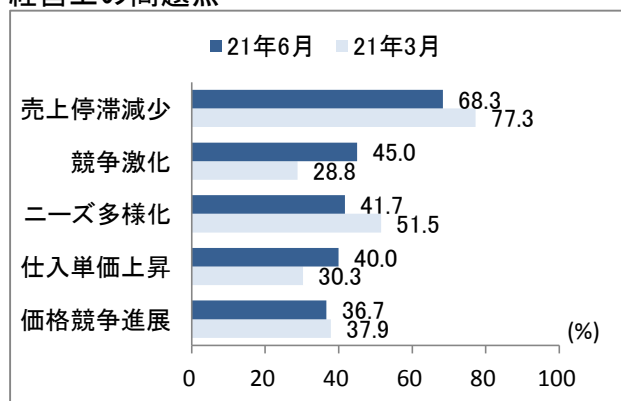
販売価格DI・販売数量DIの推移



設備投資動向



経営上の問題点



(中小企業診断士: 宗和、福井)

売上D Iは-42.8（前环比+57.2ポイント）、収益D Iは-54.2（前环比+34.3ポイント）とともに急上昇しました。前回調査時の4-6月の見通しから売上D Iは8.1ポイント、収益D Iは19.5ポイント下振れしています。緊急事態宣言の発令（4月25日～5月31日）や期間延長（6月20日）が下振れの主な要因と思われます。営業時間の短縮に加え酒類の提供が制限され、飲食店は限界を超えています。

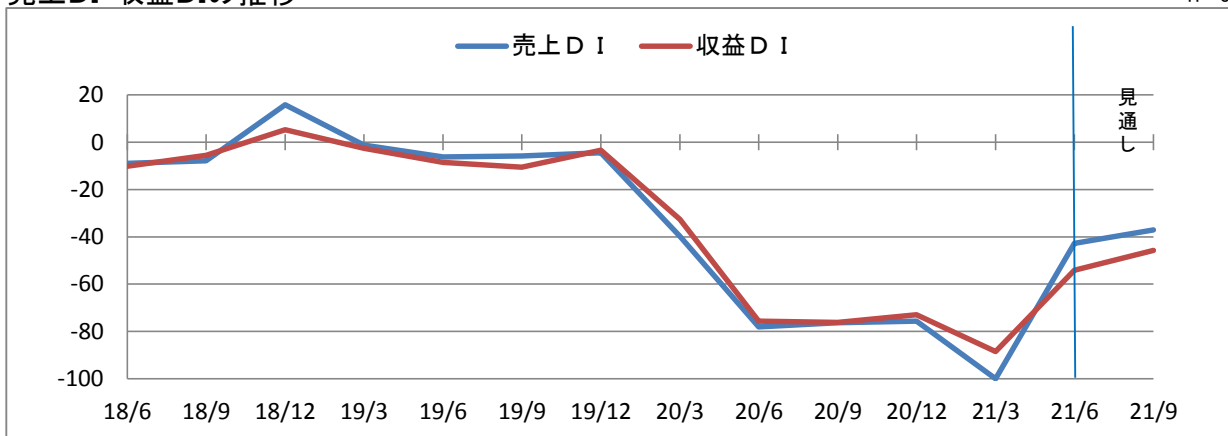
2021年7-9月期は、売上D Iが5.7ポイント、収益D Iが8.5ポイントともに上昇すると予想し、宣言解除後の営業再開に期待しています。

経営上の問題点は、「売上停滞減少」が84.8%（前环比+5.6ポイント）と最大の問題点ですが、「資金繰り・調達難」が36.4%（前环比+7.2ポイント）に上昇しています。感染症対応融資の返済が始まる企業や国からの協力金支援も遅れ気味で、資金繰りが大きな問題点として再燃することが危惧されます。

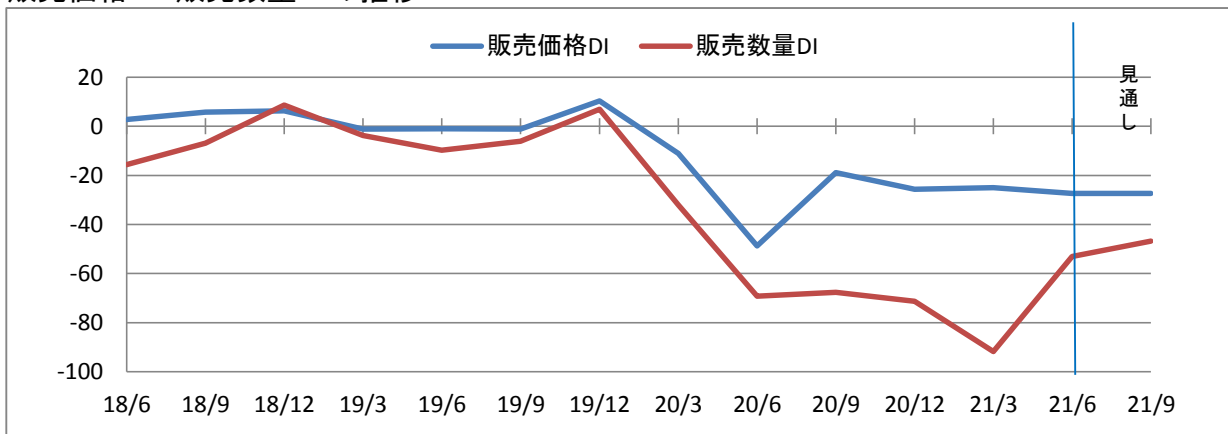
設備投資は「実施中」が11.8%（前环比△4.9ポイント）、「予定あり」が20.6%（前环比+16.4）で合計32.4%となり、事業再開に伴ない設備投資を考える企業が増加しています。内容は「事務所、店舗、工場の新設・増設」が60.0%、資金調達方法は「全て自己資金」が57.1%となりました。

売上DI・収益DIの推移

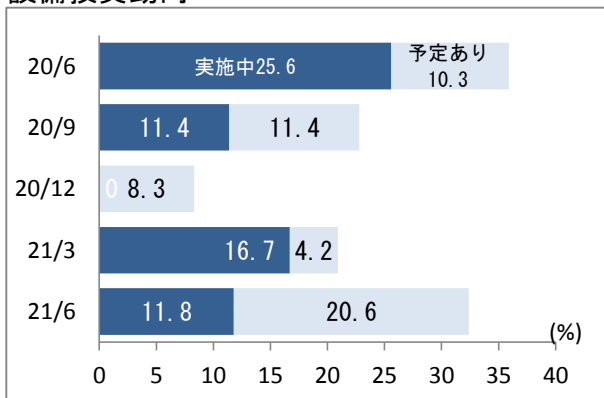
n=35



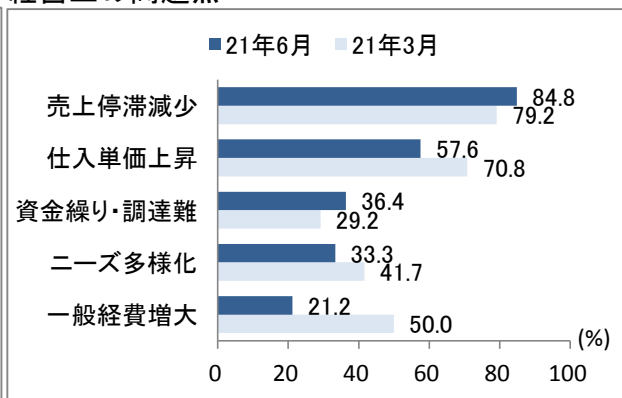
販売価格DI・販売数量DIの推移



設備投資動向



経営上の問題点



(中小企業診断士: 仲井、竹並)

建設業

公共工事増も単価上昇 懸念される収益

売上D Iは-35.1（前环比+6.8ポイント）、収益D Iは-34.2（前环比+9.5ポイント）とともに上昇しました。前回調査時の4-6月の見通しから売上D Iは1.6ポイント、収益D Iは5.2ポイント上昇し、今年度の公共工事請負件数・金額が対前年比増加に転じたことが主な要因と思われます。

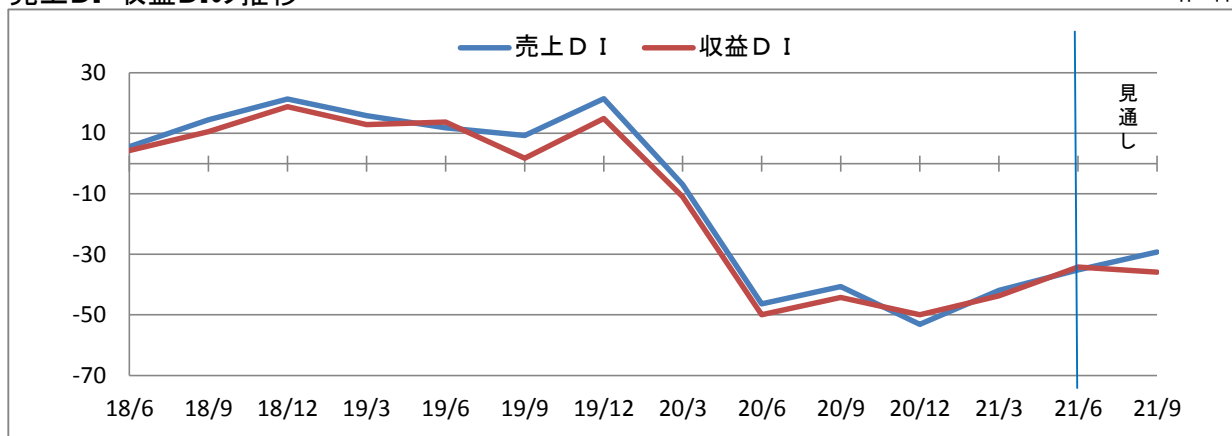
2021年7-9月期は、売上D Iが5.9ポイント上昇し、収益D Iが1.7ポイント下落すると予想しています。

経営上の問題点は、「売上停滞減少」が68.5%（前环比△1.0ポイント）となりましたが、「仕入単価上昇」が55.0%（前年比+7.4ポイント）に上昇し、建築部品や木材の高騰により収益に悪影響が及ぶことが懸念されます。

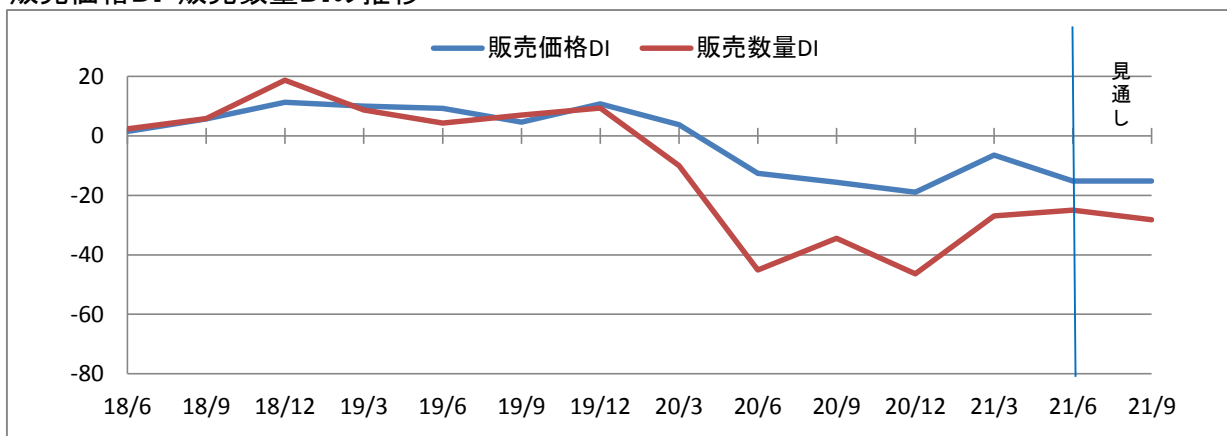
設備投資は「実施中」が11.8%（前环比+2.5ポイント）、「予定あり」が9.1%（前环比△3.0ポイント）で合計20.9%となりました。内容は「車両」が52.2%、「事務所、店舗、工場等の新設・増設」と「機械等の新設・増設」がそれぞれ21.7%、資金調達方法は「全て自己資金」が39.2%、「全額借入する」が21.7%となっています。

売上DI・収益DIの推移

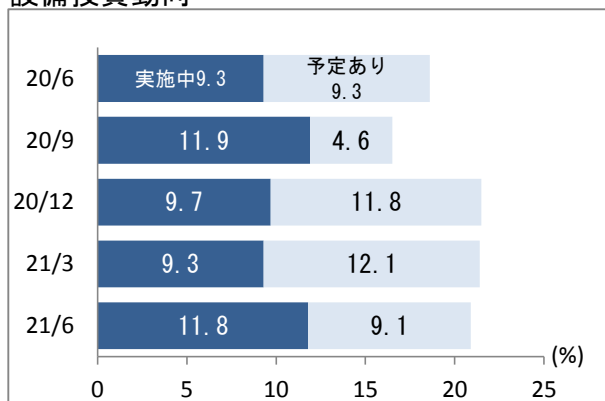
n=115



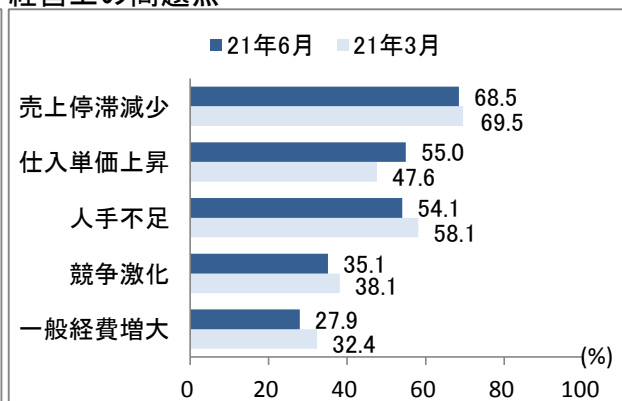
販売価格DI・販売数量DIの推移



設備投資動向



経営上の問題点



(中小企業診断士:仲井、楠)

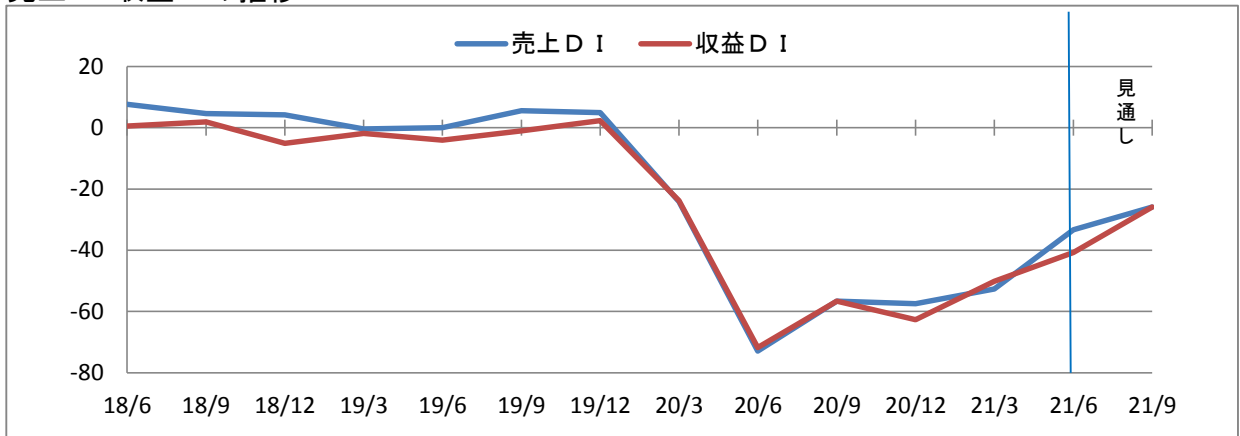
売上D Iは-33.3（前环比+19.3ポイント）、収益D Iは-40.7（前环比+9.4ポイント）とともに上昇しました。前回調査時の4-6月の見通しから売上D Iは1.3ポイント、収益D Iは6.5ポイント下振れしています。緊急事態宣言の発令（4月25日～5月31日）とその期間延長（6月20日）より、顧客数が伸び悩んだことが主な要因と思われます。

2021年7-9月期は、売上D Iが7.4ポイント、収益D Iが14.8ポイントともに上昇すると予想し、ワクチンの職域接種の拡大で、顧客が戻り売上が増加することを期待しています。

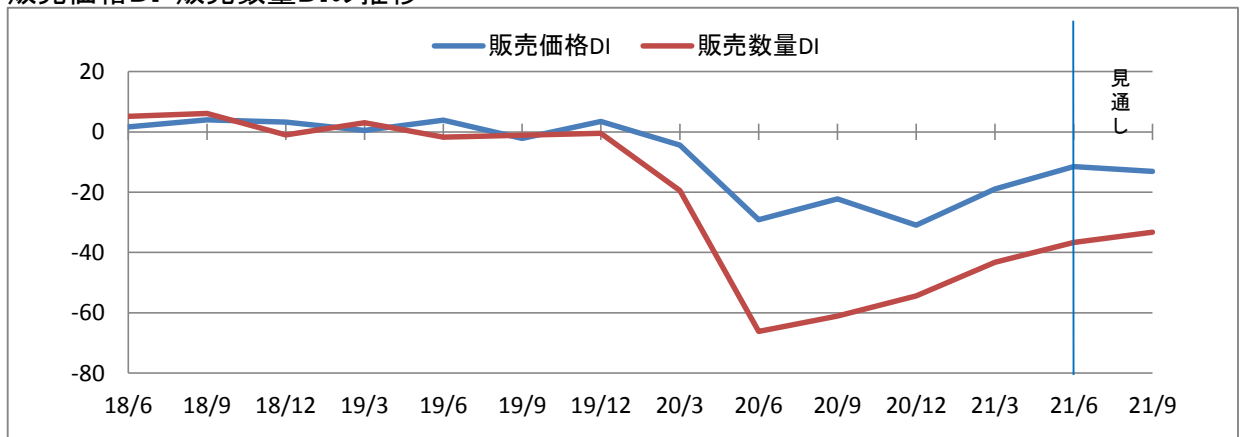
経営上の問題点は、「売上停滞減少」が66.2%（前环比+6.2ポイント）となりましたが、「資金繰り・調達難」が27.3%（前年比+15.9ポイント）に上昇し、落ち着きを見せていた資金繰り問題の再燃が危惧されます。

設備投資は「実施中」が9.2%（前环比△0.7ポイント）、「予定あり」が14.5%（前环比△2.4ポイント）で合計23.7%となりました。内容は「事務所、店舗、工場等の新設・増設」と「機械等の新設・増設」がそれぞれ26.7%、46.3%、資金調達方法は「全て自己資金」が62.5%となりました。

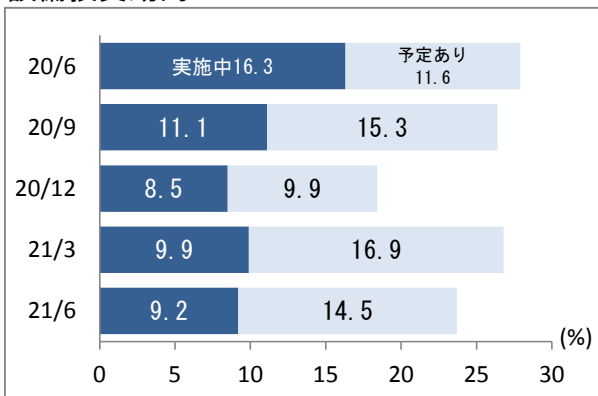
売上DI・収益DIの推移



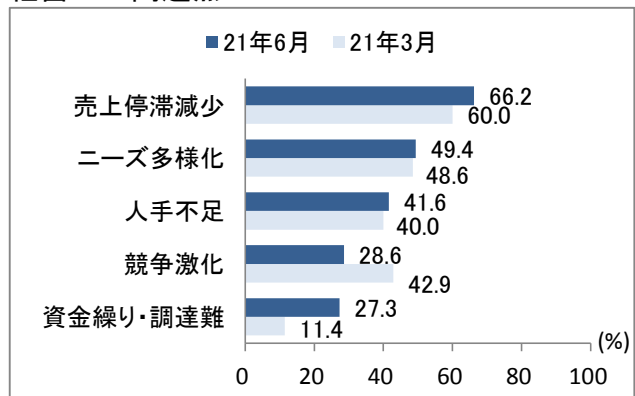
販売価格DI・販売数量DIの推移



設備投資動向



経営上の問題点



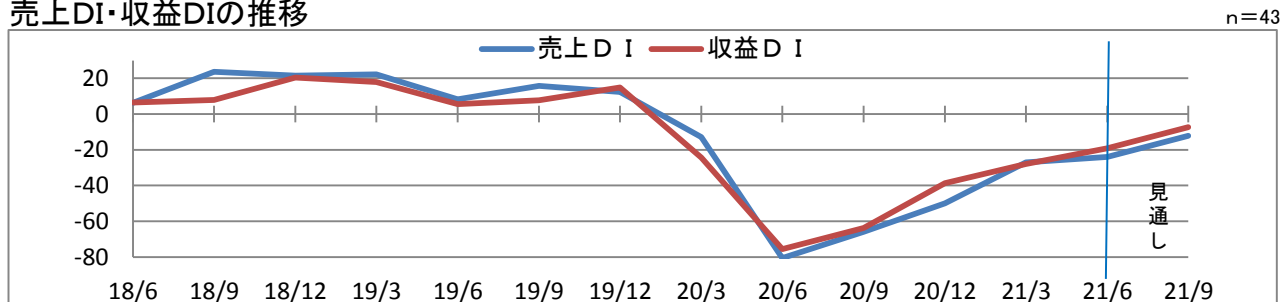
(中小企業診断士: 芝田、楠)

運輸業

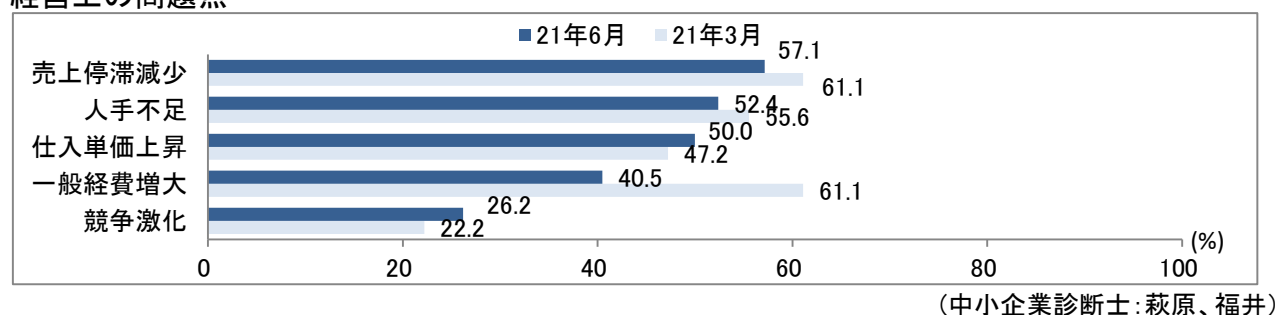
燃料上昇 収益圧迫

売上D Iは-23.9（前回比+3.2ポイント）、収益D Iは-19.1（前回比+8.8ポイント）とともに上昇しました。前回調査時の4-6月の見通しから売上D Iは18.5ポイント、収益D Iは0.3ポイント下振れし、緊急事態宣言の発令（4月25日～5月31日）と期間延長（6月20日）による影響が主な要因と思われます。2021年7-9月期は、売上D Iが11.7ポイント、収益D Iが11.8ポイントそれぞれ上昇すると予想し、宣言解除後の回復に期待しています。経営上の問題点は、「売上停滞減少」が57.1%（前回比△4.0ポイント）、「人手不足」が52.4%（前回比△3.2ポイント）となりました。原油価格上昇による燃料費の高騰が、収益に悪影響を及ぼすことが懸念されます。

売上DI・収益DIの推移



経営上の問題点

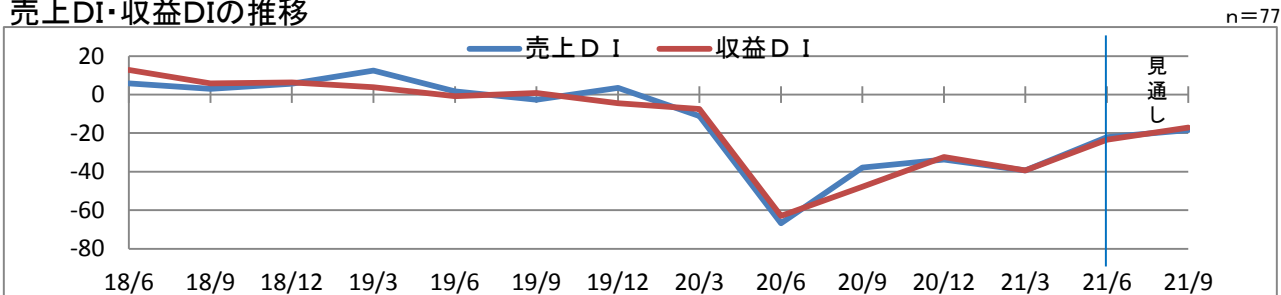


不動産業

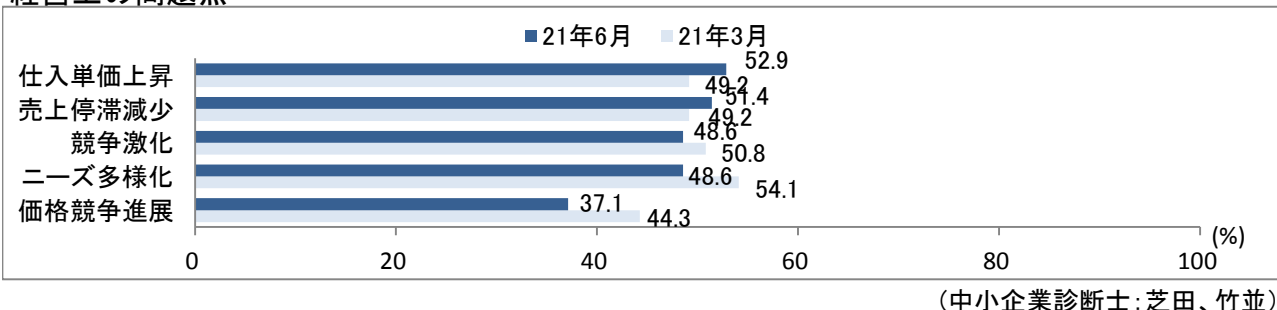
仕入単価上昇 依然価格高止まり

売上D Iは-22.1（前回比+17.3ポイント）、収益D Iは-23.4（前回比+16.0ポイント）とともに上昇しました。前回調査時の4-6月の見通しから売上D Iは2.4ポイント、収益D Iは2.2ポイント下振れました。経営上の問題点は、「仕入単価上昇」が52.9%（前回比+3.7ポイント）と最大の問題点に浮上し、物件価格は依然高止まりしており、中小企業では売買が難しくなっています。

売上DI・収益DIの推移



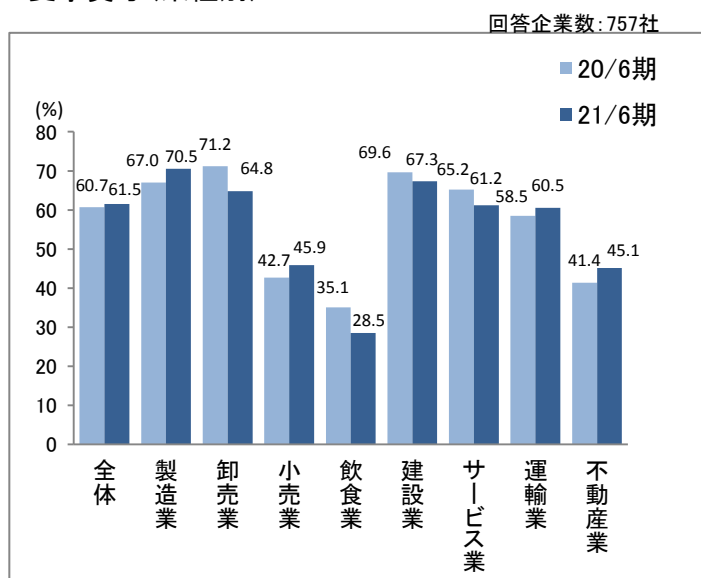
経営上の問題点



夏季賞与支給状況

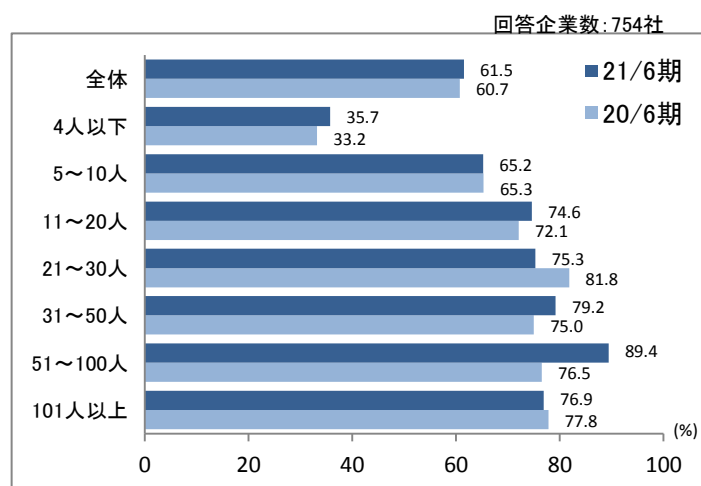
コロナ収束近いか？賞与アップ

夏季賞与(業種別)



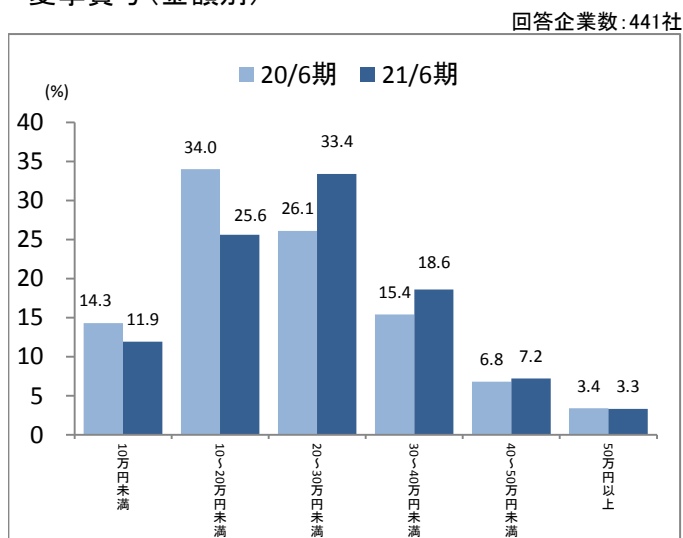
夏季賞与について、「支給する」が61.5%（昨年比+0.8ポイント）となりました。昨年から上昇したのは、製造業が70.5%、運輸業が60.5%、小売業が45.9%、不動産業が45.1%となり、新型コロナウイルス感染症による経済への影響が長期化していますが、人材の流出防止や確保のため、苦しい中ですがボーナスの支給に踏み切っていると思われます。

夏季賞与(従業員数別)



従業員数別では、支給する企業が増加したのは、「51~100人」が89.4%、「31~50人」が79.2%、「11~20人」が74.6%となりました。従業員を多く抱える企業ほど人材の確保に懸命になっています。

夏季賞与(金額別)



金額別では、支給する企業が増加したのは、「20~30万円未満」が33.4%、「30~40万円未満」が18.6%に上昇する一方、「10~20万円未満」は25.6%に下落し支給金額は上昇しています。感染症収束後を見据え、賞与は増額せざるを得ない状況にあります。